



TITLE:

編輯室より

AUTHOR(S):

CITATION:

編輯室より. 天界 1940, 20(229): 224-224

ISSUE DATE:

1940-04-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/167991>

RIGHT:

3) 協會紀伊支部の現況

現在、縣下の本會々員は小槇支部長以下10名であります、毎月の例會には地理的の關係から小槇、阪田、山本、島田、野村以外の方々は出席されて居りません。殆ど星の會會員及高商同好會の方々のみであります。念のため縣下の天文團體を略述します。

(A) 東亞天文協會紀伊支部

支部長 小槇孝二郎氏（有田郡金屋） 會員10名

(B) 和歌山星の會

委員 山本靜雄君、阪田晃氏、島田晉樹氏及小生（事務所は小生方）
會員20名

(C) 高商天文同好會（和歌山高商内）

代表者 山本靜雄君、新谷雅信君、會員約20名

以上の三團體が聯結して非常に面白し毎月例會を開催して居ります故、本協會員の御參加を希望します。（和陸赤院にて 野村記）

逝ける淺野英之助氏

山口縣に於て、早くより黃道光の觀測に専心し、多くの觀測記録を残された。



編輯室より 來年のドイツ曆が早く到着したので、いち早く本誌に1941年度の略曆表を掲げます。一般人に先んじて、本會の會員たちは、來年の天象の模様を知り、社會を指導して貰いたいからである。前々號といひ、本號といひ、竹内博士が日食觀測に關する物理學者らしい立場からの暗示を寄せられるのは有難い。將來の日食觀測プログラムの中には、ます々々天文と物理との協力によるものが増すことと豫期される。S. I. 氏の日本古曆の研究文も亦、益々佳境に入る觀がある。誰か、支那やインドの曆についても、大に研究して頂きたい。